

## 経営学研究科の教員養成に対する理念・構想

経営学研究科は、校訓「三実」（「真実」・「実用」・「忠実」）という教育理念を踏まえ、高度に多様化した社会的ニーズに応えるべく、経営学、商学、会計学、管理工学、産業社会、経営文化の各分野における高度な理論と、その実践的な応用力を活かし、社会のさまざまな領域において発生する具体的な問題を解決する能力を備えた、高度専門職業人の育成を目的とする。その目的のために、経営学の各学問領域に演習・専門科目を配置し、指導教授による教育・研究指導体制のもと、自ら研究課題に取り組み、修士（経営学）の学位が取得できるように指導している。こうした経営学研究科の性格・目的をふまえ、教員養成においては「経営学の高度な専門的知識とスキルを備えた専門的職業人としての教員を養成すること」を理念とし、高等学校商業科教員を養成するための教育課程を設置する。

この理念を実現するための教員養成の構想として、各年次で以下のような科目を設定し、指導教授の「演習」を中心軸とした学びを積み上げていく。

1年次：経営学、商学、会計学などの各学問分野の授業科目を広く履修することで、ビジネスの諸活動に関する高度な専門知識を幅広く学び、「演習」を通して具体的な問題の解決方法を学ぶ。

2年次：1年次に引き続き各学問分野の授業科目をひろく履修し、修士論文の完成に向けて「演習」で具体的なテーマを追究することで、課題解決のための実践的な態度や創造的な能力を高める。

以上の理念・構想から、「経営学の高度な専門的知識とスキルをもとに、社会の発展を担う職業人の育成ができる教員」を経営学研究科の目指す教員像とする。経営学研究科は、高等学校において商業教育を担い、指導的役割を果たすことのできる有為な人材を育成する。

## 経営学研究科に教職課程を設置する趣旨

### ○高等学校教諭専修免許課程（商業）の設置趣旨

経営学研究科博士前期課程は、学士課程教育をさらに発展させ、経営学に関連するさまざまな学問領域において演習・専門科目を配置して教育課程を編成し、広い視野と学識、スキルを有する専門的職業人としての教員を養成することを理念とする。

高等学校学習指導要領（商業）の目標には、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す」とある。経営学研究科では、企業や組織が抱える課題を抽出し、それを解決する方法を明らかにするための研究活動をおこない、そのなかで高度な専門性と実践的な態度を備えた人材を養成する。高等学校教諭専修免許をめざす大学院生は、そうした教育課程にもとづき、経営学の専門的知識技能を深めつつ、教育現場で指導的な役割を担うことのできる商業科教員を目標として研鑽を積む。経営学研究科の大学院生は、学部の講義や演習の教育補助業務に従事する機会も与えられ、それを活用して教育能力の向上をはかることもできる。精深な学識を身につけ、経営学分野の高度の専門性を有し、それを活かすことのできる商業科教員を教育界に輩出することが、経営学研究科の責務のひとつであり、指導的な役割を担って高等学校における商業教育に貢献することができる教員を養成するため、経営学研究科に高等学校商業の免許課程を設置する。